

いいやま広小路会議について ～飯山復活教会を中心として～

飯山小学校 大森 昭智

1. はじめに

平成29年7月に飯山復活教会が国の登録有形文化財に登録された。その背景には、飯山らしいまちづくりを目指す「いいやま広小路会議」の願いと動きがあることを知り、地域の人々の願いをまちづくりに活かすという地方自治、ふるさと教育の視点からよい教材となるのではないかと思い、調査を行った。

2. 調査内容

(1) いいやま広小路会議について

① いいやま広小路会議とは？

「飯山復活教会」を中心として、前を走る広小路とともに魅力ある飯山のまちとして再生させたいという地域の人々の集まりで、2013年10月より、会議を開いている。

→「歴史とロマンを感じ芸術性あふれる街へ」

※2018年9月までで42回の会議を実施。

② 「飯山まちづくりデザイン会議」から「いいやま広小路会議」へ

○広小路会議は「飯山まちづくりデザイン会議」が出发点。

→「飯山まちづくりデザイン会議」は、飯山市が新幹線開業に向けた観光目標の一つとして掲げた「まちなか観光の充実（回遊性のあるまちづくり）」を具体的に進めるために、その方向性とデザインについて提案をするもの。

○飯山のもつ「歴史」と「四季鮮やかな自然」を活用し、市民が活力を発揮する場の創出

○時の流れは飯山までは速く、「まちなか」ではゆっくりと…（飯山の玄関から飯山の客間へ）

○5つのエリアを重点的に

<飯山駅周辺境界> <愛宕寺町境界> <商店街境界> <飯山城跡公園・人形館境界>

<広小路境界>

・既存の蔵の活用や、式の彩りを感じる樹木でパティオ的な空間整備。城山の見え方を工夫。

・有名な地酒屋や菓子屋などがあるので、商店との協力で経済効果を上げる。

○まちづくりの専門家の会議 → 地域の民間主導の会議へ（いいやま広小路会議）

② いいやま広小路会議のメンバー（代表：田中隆太さん）

・近隣の店舗を含めた地域の方、飯山復活教会の信徒と牧師、建築家、美術家、市役所商工観光課職員、市役所まちづくり課職員等

→メンバーの加入等は柔軟的に

③ いいやま広小路会議の内容（平成29、30年を中心に）

・「広小路境界まちづくり協定」の検討、作成

→平成30年3月16日施行

・飯山復活教会ハロウィンイベントについて（今年9月29日）

・広小路会議のホームページ作成、更新…情報の発信

・回遊ルートの情景事業…プランター植栽等

・教会の参道、庭等の整備事業 など



④新たな「いいやま広小路会議」としての設立総会（2018年11月28日）

- ・いいやま広小路会議会則の承認
- ・役員を選出と承認
代表： 田中隆太さん（田中屋酒造店主） 副代表：平野信一さん（パティスリーヒラノ社長）
副代表：金子謙一さん（飯山復活教会管理人）
- ・「広小路基本計画」（H29. 3）にそって活動をしていくことの確認。
コンセプト『歴史とロマンを感じ芸術性あふれる街へ』
目的…3つの活性化 「商業・事業の活性化」「住民参加と楽しみ」「来住者・移住・創業」
- 将来のイメージ ・新しいスタイルの教会と広場で地域が賑わう
・広小路広場と子ども館で未来の子供と地域が輝く
・飯山城址・人形館、そして広小路広場が結ばれて回遊を楽しむ

(2) 飯山復活教会の文化的価値について（信州大学工学部建築学科 土本俊和先生講演資料より）

【平成29年7月に国の登録有形文化財に登録】

- ・昭和7年（1932）に建立された教会堂（尖頭アーチ状の入り口、畳敷きの礼拝堂）
→保存状態が良好であり、有効に活用されている。
地方の小規模な教会堂として建築的な質がたかい。
- ・寺の町飯山においてキリスト教文化の伝道のわかるもの。
- ・建設にも関わるジョン・ゲージ・ウォーラー司祭の長野県における布教活動の貢献を示すもの。



畳敷きの礼拝堂



羽目板もアーチ状

(3) 飯山復活教会と人々の信仰

①日本聖公会中部教区の教会として（日本聖公会中部教区HPより）

現在、聖公会は約160カ国に広がり、およそ8,000万人の信徒を有している。聖公会は、ローマから独立して聖書を信仰の柱とするプロテスタントとしての性格を持つ一方、聖餐式（ミサ）を中心とする典礼や歴史的な主教制などカトリックとしての伝統も重んじている。そうした性格から、カトリックとプロテスタントをつなぐ「橋渡しの教会」とも言われています。また、聖公会のもととなる英国国教会が全住民のための教会として、その地域への責任を担ってきたことから、世界の聖公会でも、教育や福祉などの社会的な働きに積極的に取り組む伝統が息づいている。

②飯山復活教会ができるまで（信徒代表 我妻英雄さんのお話より）

明治26年頃に飯山に伝道に来た人がいたが、当時集会所はなかった。その後、信徒が一般民家を買収して、民家を集会所として教会の運営を約40年行ってきた。（集会所の場所のはっきりわからないが、今の上倉か奈良沢の辺りだと考えられる。）昭和に入り、今の飯山復活教会の土地を手に入れ、当時の信者の強い願望とジョン・ゲージ・ウォーラー司祭の申請によるカナダ聖公会の援助により、昭和7年に現在の教会が建設された。

③現在の信者と教会の活動について（信徒 金子謙一さんのお話より）

- ・現在の信者のいる戸数は10軒程度。（豊田村2軒、飯山5軒、中野1軒、長野1軒、須坂1軒、小布施1軒だが、常時参加しているのは飯山・中野の5軒。）
- ・活動内容→毎週の日曜礼拝、草取り・雪片付け等の整備作業
イベントの企画運営（復活祭、クリスマス、ハロウィン、コンサート等）
- ・地域の集会所として…福寿町等の地域の人々の集会所として活用されることもある。



CORQ (コルク)

(4) いいやま広小路会議による教会の周辺の整備

- ・チャペルエントランス整備（平成27年11月）
→CORQ（コルク）をしきつめる。美術家の田窪恭治氏デザイン。
※平成28年10月 飯山復活教会で33年ぶりの結婚式

(5) ハロウィンガーデンパーティー

（平成30年10/28，平成31年9/29）

①内容

- ・ハロウィンゲーム ・仮装パレード
- ・キッズガーデンパーティー
- ・ガーデニングボランティア
- ・大人のガーデンパーティー

②参加者 約300名

③協力者 広小路会議メンバー 市内ALT 飯山高校ボランティア 子ども館「きらら」職員等

④その他

- ・平成27年より実施している。
- ・平成31年は雨天のため、飯山小学校のピロティを使用した。また、子ども館「きらら」とも連携をしてイベントを実施したため、きららの利用者を含めて多くの子どもたちで賑わった。



「きらら」でお菓子をもらう子どもたち



飯山小ピロティでゲーム

(6) 飯山復活教会 クリスマスコンサート

①クリスマスコンサート

- ・飯山高校合唱同好会、弦楽器部等の高校生や地域の有志団体による歌や楽器による演奏を行った。
- ・信者や地域の方、きららを利用している子どもたち等、約50名の参加者で礼拝堂内はいっぱいになった。

②キャンドルサービス及び夕食会

- ・コンサート後にキャンドルサービス、クリスマスソング斉唱、夕食会を行った。
- ・夕食会中には、出し物やマジックショーなどが行われ、非常に温かな雰囲気だった。



キャンドルサービス



コンサートの様子

(7) いいやま広小路会議に関わる方のお話

田中隆太さん（いいやま広小路会議代表、田中屋酒造店主）

飯山に住む人でもなかなか気づいていない飯山のよさをとらえ直し、「飯山らしく」自然な形での意味のあるまちづくりを進めたいと思います。飯山復活教会のみを特別なものとして考えているわけではありませんが、寺の町飯山で「教会」という切り口が新しく、若い人もとつきやすいのではないのでしょうか。昨年は教会で結婚式も挙げることができました。ハロウィンもたくさんの小学生に来てもらえました。「住んでいておもしろい」「何だかわからないけど行きたい」と思ってもらえるようなまちになるとよいです。今、広小路会議でHPも作っています。広小路の情報を発信しつつ、外部の人の感覚や評価をまちづくりに活かしたいと考えています。いろいろな価値観からこのまちを見た上で、価値観を共有し、ある程度の基準をそろえるために話し合う場として、いいやま広小路会議を位置付けたいと思います。人がどんどん少なくなっていく飯山で、「地域でくらしたい」「地域で仕事をおこしたい」と思う人を少しでもサポートできる組織になればとも思っています。

宮澤俊昭さん（飯山市役所 商工観光課 課長補佐兼観光係長）

飯山に新幹線がくるといことで、多くの人々が飯山駅で降りて飯山のまちを歩き、商店街なども活性化させたいという当時の願いがあり、市から広小路の方々に声をかけさせていただきました。「まちづくり」の先進地の視察や情報交換などで広小路のあり方を考え、広小路会議を定期的に行い、現在までで37回行っています。ハロウィンなどのイベントは商工観光課、景観協定や小径の整備などはまちづくり課が主にに関わり、市からの補助金も出して事業を進めさせていただいています。広小路の方々の飯山に対する熱い思いが感じられる会ですので、いずれは広小路会議のメンバーが自立できるようにしていけるとよいと考えています。広小路の住民が中心となって地域を活性化させようという活動が他の市民団体への刺激になり、観光客へのPR やさらなる飯山の活性化、経済効果につながることを願っています。

渡邊 毅さん（飯山市役所 まちづくり課 ）

広小路は土蔵や教会など趣のある建物が多いことから、飯山まちづくりデザイン計画では、「食とくつろぎのエリア」としてのまちづくりを推進していく方針となっています。広小路会議では、地域の商店主や住民と商工会議所、市がいっしょになって、地域の将来をについて話を積み重ねてきました。これからは、まちなみ整備等のハード面だけでなく、イベントの企画等の地域のまちおこしに関わるソフト面の両面からのまちづくりを大切にして進めていきたいと思っています。また、飯山復活教会が平成30年6月に景観法に基づく市内初の飯山市景観重要物に指定されたことで、財政面の援助が得られるようになりました。これによって、教会の建物及び周辺整備も進められるので、援助を有効に活用してほしいと思います。

ただし、「いいやま広小路会議」はまだまだ組織としては、発展途上です。「HP管理」「イベント」「会計」といった役割分担を明確にし、住民中心の体制づくりを整えていく必要があると思います。会計についても、補助金だけでなく、自分たちで何かをやり事業収入を得ていく方策を考えてなくてはなりません。

我妻 英雄さん（飯山復活教会信徒代表 赤のれん店主）

私は昭和7年生まれですので、昭和7年に建てられた飯山復活教会と同じ年齢です。戦争中は、海外からの援助がなくなり、教会全般に苦難の時代でした。教会を守るのも大変だったと思います。戦後は私の父が植えた胡桃の木の胡桃を売って、教会の維持や牧師さんの生活費の補助にしたそうです。

いいやま広小路会議では、ハロウィンなどたくさんの方が教会を利用するイベントを考えています。教会の整備も進み、地域の人も集会所等で使っていただき、うれしいです。昔から地域の方のより所となっていた教会ですので、これからもたくさんの方に利用してほしいです。

金子 謙一さん（いいやま広小路会議副代表 復活教会管理人）

新たな「いいやま広小路会議」としての設立総会が平成30年11月に行われて、広小路の組織としてはしっかりしてきています。あとは、具体的に動き出すことが大事だと考えています。例えば、パティスリーヒラノと教会を結ぶ天使の小径作りです。ヒラノと教会がつながり、教会の庭や広小路広場でゆっくりとおいしいケーキを味わうことができるといいですね。教会では、週末カフェなどのイベントも考えているので、景観の整備等も進めつつ、「いいやま」の魅力を感じてほしいです。

また、教会ではクリスマスコンサートもやっていて、飯山高校の合唱同好会や弦楽器部のみなさんが演奏をしてくれており、貴重な発表の場となっています。そういった地域のみなさんの自主的な活動の温かな受け皿にもなればと考えています。教会に集まる信徒の方も刺激を受けて、定期的な合唱練習を始めました。コンサートも春夏秋冬の年間を通して行いたいというのが理想です。

このように活動を通して、地域の方が自分で考えて、自主的に活躍の場を広げていく動きがあるということがいいことです。いいやま広小路会議では、こうした地域の方の思いも大切にしながら、より具体的な活動を考え、実行していくことで地域の温かなつながりの輪を広げていきたいと思っています。

（8）いいやま広小路会議の運営上の課題（いいやま広小路会議関係者の話より）

- ・行政と地域の役割分担…地域住民中心の体制づくり

※新たな広小路会議としての設立総会（2018.11.28）もあり、組織づくりが進んでいる。

- ・人々が歩きたくなる町づくり
- ・広小路のよさを住民自身が自覚すること
- ・駐車場や蔵の整備（個人の所有）

3. 教材化について

（1）扱えそうな教科等

総合的な学習の時間，社会科

（2）社会科学習指導要領において

①小学校社会第6学年の内容

「（1）ア(イ)国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解すること。」

→（内容の取り扱い）「国や地方公共団体の政治」については、社会保障、自然災害からの復旧や復興、地域の開発や活性化などの取組の中から選択して取り上げること」

○広小路会議では、広小路開発や活性化のための地域の願いについて、飯山市役所商工観光課、まちづくり課がその願いを受け止めつつ、支援をしている。「地域の開発や活性化の取組」として、教材化ができるのではないかな。

○飯山城址公園の整備が進められており、城山と広小路広場、人形館を結ぶ回遊性のあるまちづくりについて人々の願いをどのように整備計画に活かしているのかという学習も考えられる。

②小学校社会第3学年の内容

「(1) イ(ア)都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること」

○「古くから残る建造物の分布」を調べると、多くの寺院がある中で唯一の教会である飯山復活教会があることに気づき、「なぜ、教会があるのだろうか」「どのような教会なのだろうか」「どのような人が教会に来ているのだろうか」という問題意識をもって学習が深まっていきそうである。総合的な学習の時間とのつながりも考えられる。

③中学校公民の内容

「イ民主政治と政治参加

地方自治の基本的な考え方について理解させる。その際、地方公共団体の政治の仕組みについて理解させるとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる。…」

「地方自治の基本的な考え方について理解させる」については、住民自治を基本とする地方自治の考え方について理解させることを意味している。すなわち、地域社会における住民の福祉は住民の自発的努力によって実現するものであり、住民参加による住民自治に基づくものであること、そして、このような住民自治を基本とする地方自治の考え方が、地方公共団体の政治の仕組みや働きを貫いている基本的な考え方であることについて理解させることを意味している。…

また、このことを理解させるために、身近な地方公共団体の政治について取り上げるとともに、住民の権利や義務に関連させて扱うことにより、地域社会への関心を高め、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てることが大切である。…」（中学校社会学習指導要領解説）

○飯山の未来をみすえ、広小路を通して地域を活性化させようという地域の願いを市が支援し、これに賛同をする人々が自分たちの地域のために動き出していく自主的な取組みを学んでいくことにより、自治意識を具体的にとらえられると考える。年齢の近い高校生もボランティアで関わっていることもふまえて、高校生の思いを聞いたり、中学生としての関わりを考えさせたりしてもよい。

4. 終わりに

これまでの調査を通して、いいやま広小路会議では、地域の文化財として飯山復活教会に目を向け、「いいやま」のことを思う広小路の人々や市職員が連携し、地域のために知恵を出し合っていることがわかった。さらに、現状で満足することなく、常に自分たちの活動や会議のあり方を見つめ直し、地域のためにさらによりよいものに更新していこうという姿が見られる。

飯山復活教会の文化財としての価値はすばらしいが、その教会をつくり、大切に守ってきた人々の営み、現在「いいやま広小路会議」として本気になって地域の未来について考えている人々の姿に出会っていくことこそが子どもたちにとって非常に大きな価値のあるものとなると考える。

<参考文献・資料>

- ・いいやま広小路会議HP ・「広小路界限創造プラン」飯山広小路会議（H26.3）
- ・「歴史と自然に彩られたふるさと飯山まちづくり」飯山まちづくりデザイン会議（H23.8.19）
- ・平成28年度まち並み整備事業「広小路基本計画」（H29.3）
- ・「田井安曇 ある日ある時」飯山復活教会歌碑建立記念（2016年11月2日発行）